

総合的な学習の時間と特別活動における主体的・ 対話的で深い学びの実現に関する研究 —両者を関連させた異学年交流の設定を中心として—

山梨学院大学 百瀬光一
長野県稲荷山養護学校 下崎 聖

1 はじめに

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている¹⁾。中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月21日）（以下、中教審答申（2016年12月21日）と略記）によれば、「主体的・対話的で深い学び」の実現について次のように述べている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである²⁾。

以上より、「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、子供たちに必要な資質・能力を身に付けさせるために、教員が授業の工夫・改善を積み重ねていくことであるといえる。この主体的・対話的で深い学びの実現に関する先行研究で、総合的な学習の時間及び特別活動に関するものを概観すると、双方において授業実践レベルでの研究は、まだこれからという段階である³⁾。今後、新学習指導要領の全面実施化に向け、さらに双方の授業実践レベルでの研究が求められるところである。

そこで本研究⁴⁾は、特別支援学校高等部（知的障害）の生徒を対象とした総合的な学習の時間及び特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現を図るための授業開発について追究する。具体的には、主体的・対話的で深い学びを実現させるために、1学年の総合的な学習の時間と、2学年及び3学年の特別活動（ホームルーム活動）とを関連させ、双方の学習の過程の中で「異学年交流」の場を設定し、①1学年と2学年、②1学年と3学年、③1学年と2学年と3学年という3つの交流を図ることにした。

このように、異学年の教育内容を教科等横断的に相互に関連させながら学校教育目標の具現化を図ろうとする本研究は、中教審答申（2016年12月21日）で指摘されている「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面の一つ、「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと」⁵⁾にも資するものであるといえる。

なお、本研究で開発した授業の有用性は、①授業後に生徒に実施したアンケート調査、②生徒の表現物（授業の感想等）、③授業者による評価の3点⁶⁾から検証することにした。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業開発

中教審答申（2016年12月21日）によれば、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、以下に示す三つの視点に立った授業改善を行うことが重要であるとしている。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。（後略）
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。（後略）
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか⁷⁾。（後略）

さらに中教審答申（2016年12月21日）によれば、「単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる」⁸⁾としている。

以上のことを踏まえ、ここでは、総合的な学習の時間及び特別活動における主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的方策について、文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（2018年）、

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(2018年)、文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(2017年)、文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(2017年)、及び関連する先行研究を基に検討していくことにする。

なお、文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(2017年)及び文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(2017年)を活用するのは、対象とする生徒の実態を考慮してのことである。また、後述する実践校は、「総合的な探究の時間」ではなく「総合的な学習の時間」として教育課程に位置付けている。よって、本研究で開発する授業は「総合的な学習の時間」の名称で扱っていくことにする。

(1) 総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びの実現

1) 学習指導要領解説

文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(2017年)には、探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の実現について、具体的な解説がなされている。まとめると、表1⁹⁾になる。

表1、総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的方策

| 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための三つの視点 | 【具体的方策】 |
|-----------------------------|--|
| 【「主体的な学び」の視点】 | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくために、実社会や実生活の問題を取り上げるようにする。 ●学習の見通しを明らかにし、学習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができるような学習活動の設定を行うようにする。 ●自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていくことができるような振り返りを行うようにする。 ●学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既存の知識とを関連させながら、自分の考えとして整理する深い理解につながっていくように文字言語でまとめるようにする。 |
| 【「対話的な学び」の視点】 | <ul style="list-style-type: none"> ●つながりのある構造化された情報へと変容させていくために、身に付けた知識や技能を使って相手に説明するように対話を促すようにする。 ●情報の構造化を質的に高めるために、他者からの多様な情報収集を行うように対話を促すようにする。 ●他者とともに新たな知を創造する場を構築し、課題解決に向けた行動化への |

| | |
|-------------|--|
| | 期待を高めるように対話を促すようにする。 ●「考えるための技法」を意識的に使うようにし、情報の「可視化」と「操作化」を図るようにする。 ●自己内対話、文献による対話、ICT 機器を使った対話など様々な対話もできるようにする。 |
| 【「深い学び」の視点】 | ●探究的な学習の過程を一層重視し、各教科で身に付けた「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を活用・発揮する場を探究的な学習の過程に位置付けるようにする。 |

表 1 の『「深い学び」の視点』の「具体的方策」に、「探究的な学習の過程を一層重視」という箇所がある。このことに関して、さらに同解説書では、探究的な学習の各段階における「深い学び」の視点を意識するための具体的な指導のポイントが述べられている。まとめると、表 2¹⁰⁾になる。

表 2、探究的な学習の過程における「深い学び」の視点を意識するための指導のポイント

| 「探究的な学習」の過程 | 【指導のポイント】 |
|-------------|---|
| ① 【課題の設定】 | ●教師による意図的な働きかけ（学習対象への関わせ方・出会わせ方等の工夫）をするようにする。 ●事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握しておくようにする。 ●学習対象に直接触れる体験活動を設定するようにする。 |
| ② 【情報の収集】 | ●情報を収集する場面においても、体験活動を重視するようにする。 ●情報を収集する場面では、収集する情報は多様であり、それは学習活動によって変わること留意するようにする。 ●多様な情報から生徒の課題解決に必要な情報は何かを吟味したり、取捨選択したりできる時間を設定するようにする。 ●課題解決のための情報収集を自覚的に行うことができるようにする（どのような情報を、どのような方法で収集し、どのようにして蓄積するか等）。 ●収集した情報を適切な方法で蓄積できるようにする（ポートフォリオ、ファイルボックス、コンピュータのフォルダ等）。 ●必要に応じて教師が意図的に資料等を提示するようにする。 |
| ③ 【整理・分析】 | ●収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行うような学習活動を適切に位置付けるようにする。 ●情報を整理する段階で、一旦収集した情報を吟味することの必要性について生徒に考えるように促し、さらに生徒自身が情報を吟味できるようにする。 ●どのような方法で情報の整理や分析を行わせるのかを決定するようにする（「考えるための技法」の活用など）。 |
| ④ 【まとめ・表現】 | ●相手意識や目的意識を明確にし、伝えるための具体的な方法を選択しながら、伝えたいことが論理的に表現できるようにする。 |

2) 先行研究

総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びの実現を図るた

めの先行研究として、百瀬・下崎の研究（2018年）がある。この研究は、特別支援学校高等部（知的障害）の生徒を対象に、主体的・対話的で深い学びを実現するために、総合的な学習の時間で重要視されている「探究的な学び（学習）の過程」（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）に、「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点を組み込んだ単元開発を行い、授業実践化を試みたものである¹¹⁾。

新学習指導要領の総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間では、改訂の基本的な考え方においても、探究的な学習の過程が一層重視されている^{12) 13)}。本研究でも百瀬・下崎の先行研究の成果を活かしながら、探究的な学習の過程を重視し、さらに先の学習指導要領解説で述べられている「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点における主体的・対話的で深い学びを実現するための、より具体的な方策等を組み込んだ単元及び授業を開発することにした。また、先の百瀬・下崎の先行研究で課題となった「人前で発表すること・感想を伝えることの機会を増やしていくこと」¹⁴⁾も踏まえ、自分の考えを発表し、それに対する聞き手の感想を伝える場も単元に挿入することにした。発表方法は、この先行研究でも有用性が確認されたプレゼンテーション・ソフトを活用することにした¹⁵⁾。

（２）特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現

１）学習指導要領解説

文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（2017年）においても、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現について、具体的な解説がなされている。まとめると、表3¹⁶⁾になる。

**表 3、特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的
方策**

| 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための三つの視点 | 【具体的方策】 |
|-----------------------------|---|
| 【「主体的な学び」の視点】 | <ul style="list-style-type: none"> ●学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見いだして解決できるように実践したり、その取組を振り返ってよい点や改善点に気付いたりできるように学習過程を設定するようにする。 |
| 【「対話的な学び」の視点】 | <ul style="list-style-type: none"> ●学級や学校における生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えられるようにする。 ●異年齢の児童生徒や障害のある幼児児童生徒等、多様な他者と対話しながら協働するようにする。 ●地域の人との交流を通して自分の考えを広げたり、自分のよさや努力に気づき、自己肯定感を高めたりするようにする。 ●自然体験活動を通して自然と向き合い、学校生活では得られない体験から新たな気づきを得るようにする ●職場体験活動を通して働く人の思いに触れて、自分の勤労観・職業観を高めるようにする。 ●キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において、他者や教師との対話を通して自分の考えを発展させるようにする。 |
| 【「深い学び」の視点】 | <ul style="list-style-type: none"> ●「実践」を課題設定から振り返りまでの一連の活動として捉え、それぞれの学習の過程において、どのような資質・能力を育むことが必要なのかを、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点から明確化するようにする。 ●各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用するようにする。 |

2) 先行研究

特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現を図るための先行研究の中で、長谷川精一・沼田潤の研究（2018年）が注目に値する。この研究では、特別活動において主体的・対話的で深い学びを実現するために、「個別学習」と「集合学習」を組み合わせた教育方法を提案し、ホームルーム活動における異文化理解を主題とする授業を例に、具体的に以下の学習の過程を明示している。

すなわち、①「予習ノート」による事前学習（個別学習）、②ディスカッション（ペア→グループ→クラス全体）（集合学習）、③ディベート（グループ対抗→クラス全体）（集合学習）、④担当教員によるテーマを発展させるための解説（集合学習）、⑤テーマに関する振り返りと「課題レポート」の作成（個別学習）という学習の過程である¹⁷⁾。

新学習指導要領の特別活動においても、先述した総合的な学習の時間と同様に学習の過程が重視されている。その上で、学習の過程として、ホームルーム活動（１）では、集団としての合意形成を、ホームルーム活動（２）、（３）では、一人一人の意思決定を行うことが示された¹⁸⁾。本研究でも、総合的な学習の時間と同様に特別活動も学習の過程を重視し、身に付けるべき資質・能力を明確化させながら、「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点における主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的方策等を組み込んだ題材を開発し、授業実践化を図ることにした。

（３）総合的な学習の時間と特別活動とを関連させた異学年交流の設定

特別支援学校の生徒を対象とする異年齢交流及び異学年交流に関する先行研究として、下崎・百瀬の道徳科の研究（2018年）がある。この研究では、特別支援学校高等部（知的障害）の１年生を対象に、「考え、議論する道徳」の授業実践を試みた。具体的には、問題解決的な学習の過程を導入し、特に多面的・多角的に考え、議論するための手立てとして、１年生と３年生の交流する場（１年生と３年生を交えて議論する場）を設定した¹⁹⁾。

このように、問題解決的な学習の過程の中に１年生と３年生の交流する場を設定したことにより、１年生にとっては、次に示す３つの成果を得ることができた。すなわち、①３年生とペア・ディスカッションをすることにより、意欲的で活発な議論が展開されたこと、②３年生との交流を通して、生徒の考えに広がりや深まりが確認できたこと、③３年生との交流を通して、生徒に自分の課題とそれを解決するための方法が明確になり、さらに設定した課題を解決することができたこと²⁰⁾、の３点である。

これらの3つの成果を先の中教審答申（2016年12月21日）で述べられている主体的・対話的で深い学びを実現させるための三つの視点から捉えれば、①の成果では「主体的な学び」を、②の成果では「対話的な学び」を、③の成果では「深い学び」をそれぞれ確認することができる。この研究は、道徳科の授業で設定した異学年交流ではあるが、同様に総合的な学習の時間及び特別活動においても、問題解決的な学習の過程の授業を導入し、その中に異学年交流の場を設定すれば、主体的・対話的で深い学びの実現が期待できるのではないかと考える。

以上より、このような問題解決的な学習の過程の中に異学年交流を設定したことの成果を踏まえながら、本研究でも総合的な学習の時間（1年生）及び特別活動（2年生と3年生）の授業に問題解決的な学習の過程を導入し、それぞれの学習の過程に異学年交流の場を設定することにした。さらに、この異学年交流の設定を柱として、先の「（1）総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びの実現」及び「（2）特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現」で述べた、主体的・対話的で深い学びを実現させるための具体的方策や指導のポイント、先行研究等を参考にしながら、総合的な学習の時間と特別活動の授業開発について検討することにした。

また、先の下崎・百瀬の道徳科の研究では、1年生の学習成果のみの分析と考察であったが、今回は、1年生と交流する2年生と3年生の学習成果も分析し、考察する。このように本研究は、異学年交流を連結点に総合的な学習の時間と特別活動とを関連させながら、双方での主体的・対話的で深い学びの実現を図り、教科等横断的な視点で学校教育目標に迫ることにした。

3 指導計画

ここでは、先の「2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業開発」を基に、対象となる生徒の実態を踏まえながら、1年生を対象とした総合的な学習の時間及び2年生及び3年生を対象とした特別活動（ホームルーム活動）の指導計画について詳述する。

（1）生徒の実態

実践校は、A 県立 B 特別支援学校高等部（知的障害）である。1年生 8名（男子 6名、女子 2名）、2年生 6名（男子 5名、女子 1名）、3年生 7名（男子 3名、女子 4名）の編成となっている。また、学校教育目標を「明るく・たくましく・より豊かに」とし、次の5つの具体的目標を掲げている。すなわち、①いのちを大切にし、健康な心と体をつくる、②できる、わかる体験から学ぶ喜びを育む、③豊かな感情をもち、それを表現できる力を育てる、④自ら動いたり働いたりすることを楽しむ気持ちを育てる、⑤社会参加の意欲を育み、自立に向けた力を育てる、の5つである²¹⁾。

次に、各学年の生徒の実態について述べる。1年生は、どの生徒も「卒業後、一般企業等に就労したい」という強い願いを持って実践校に入学している。しかしながら、この願いの実現に向け、これから具体的に何をどのようにして努力していくかについての自己課題は、まだ漠然とした状態である²²⁾。この自己課題の明確化が、1年生にとっての今後の課題である。障害の程度は軽度である。

2年生も1年生同様に、どの生徒も卒業後の一般企業等への就労を目指して努力している。特に、作業学習や現場体験実習などを通して、具体的な自己課題が明確になってきている。また、新入生歓迎会（4月）では、

当時の自分達のことを思い出ししながら、1年生が学校生活に対する期待と不安の両方を持っていることを理解し、共感することができた。さらに、昨年度現3年生から作業学習の清掃活動で使用するポリッシャーのレクチャーを受けた体験（1月）を想起しながら、2年生が1年生に対して指導・助言する、清掃オリエンテーション（4月）や生活オリエンテーション（4月）の2つを企画し実施した。これらの活動を通して、今後先輩として他にも何か1年生に教えたいという願いを強く持って学校生活を送っている。2年生も障害の程度は軽度である。

3年生は、学校生活が残り1年となり、どの生徒も自己課題を明確にししながら、1、2年生同様に一般企業等への就労に向け意欲を高めている。また、3年生が中心となって企画した先の新入生歓迎会を通して、最高学年としての自覚を高めることができた。さらに、1年生や2年生の心情等を理解し、共感しながら、昨年度現2年生に作業学習の清掃活動で使用するポリッシャーの扱い方をレクチャーした経験を基に、今年度も1年生や2年生に最高学年として何か自分達のできることを取り組みたいという願いを持って学校生活を送っている。3年生も障害の程度は軽度である。

（2）設定した単元及び題材

ここでは、設定した総合的な学習の時間（1年生）の単元と、ホームルーム活動（2年生及び3年生）の題材について詳述する。実施時期は、どちらも201X年6月～7月である。これは、入学した1年生が学校生活に慣れる頃の6月に合わせてのことである。

1）単元名と単元設定の理由

1年生の総合的な学習の時間で設定した単元名は、「自分を見つめよう」である。設定の理由は、先の「（1）生徒の実態」の通り、1年生はどの

生徒も「卒業後、一般企業等に就労したい」という強い願いを持っている。しかしながら、具体的な自己課題については明確化されていない。そこで、生徒一人一人の願いを大切にしながら、それらの願いを実現すべく、具体的な自己課題とその解決方法を明確化させ、高等部一年間の見通しを持たせたいと考えた。以上の理由より、本単元を設定することにした。授業は、下崎が担当することとした。

なお、特別支援学校（知的障害）の1年生の生徒を対象とした総合的な学習の時間の実践で、同様に一年間の自己課題を明確化させるための先行研究として、先述した百瀬・下崎の研究²³⁾がある。特に今回は、この研究で開発した単元構成を参考にして授業実践化を図ることにした。

2) 題材名と題材設定の理由

2年生及び3年生の特別活動（ホームルーム活動）で設定した題材名は、「1年生に先輩としてできることを考え、実行しよう」である。同様に先の「(1) 生徒の実態」の通り、2年生及び3年生は、どの生徒も「さらに下級生に先輩として何かできることをしたい」という願いを持っている。そこで、1年生との交流活動を通して、自己理解や他者理解を図りながら、2、3年生に先輩としての自覚などを高めさせたいと考えた。以上の理由より、本題材を設定することにした。授業は、2年生の授業も3年生の授業も各担任の協力を得ながら、下崎が中心となって進めることとした。

なお、2年生と3年生に同じ題材を設定したが、2年生と3年生による合同授業は行わず、それぞれ別々に同じ展開の授業を行うことにした。これは、本研究では3つの交流活動を設定するが、その中に2年生及び3年生が単独で1年生と行う交流活動があり、その準備のための話し合いがクラス毎に必要とされるからである（表5参照）。

(3) 指導目標

文部科学省「高等学校学習指導要領」(2018年)で示されている総合的な探究の時間の目標²⁴⁾及び特別活動の目標²⁵⁾を基に生徒の実態を踏まえながら、次に示す単元目標と題材目標を設定した。

1) 単元目標

- ① 2、3年生との交流活動を通して、自己課題の解決に必要な具体的方法について理解することができる。【知識及び技能】
- ② 今後の自己課題を設定し、それを解決するために必要な情報を集め、整理・分析し、プレゼンテーション・ソフトを用いてまとめ・発表することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 自己課題の解決に向け、積極的に諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】

2) 題材目標

- ① 1年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる。【知識及び技能】
- ② 「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を見だし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(4) 単元構成及び題材構成

ここでは、先述した表1・表2・表3及び関連する先行研究での知見を参考にしながら、単元目標と題材目標を達成させるために作成した、総合的

な学習の時間と特別活動（ホームルーム活動）の単元構成及び題材構成を示す。

1) 総合的な学習の時間の単元構成

総合的な学習の時間の単元構成（全11時間扱い）を表4に示す。

表4、総合的な学習の時間の単元構成

| 学習の過程と指導 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|--|---|
| 1、課題の設定 (3H) | <p>(1) 自分自身を見つめる。 ①「中学校で成長したところは、具体的にどこ なところか?」を振り返る。 ②「今年一年の自分の願い（こうなりたい、 ああなりたいと思うこと）は、具体的にどん なことか?」について見つめる。</p> <p>(2) お家の方へのインタビュー調査を行う。 ①「中学校で成長したところは、具体的にど んなところだと思いますか?」を尋ねる。 ②「今年一年の（父・母、祖父母等）の私に 対する願いは、具体的にどんなことですか?」 を尋ねる。 (3) (1)、(2)を基に、今年一年の自分の 願いをはっきりさせる。</p> <p>(4) 今年一年の取り組むべき自分の課題を 決めます。 ①生徒用の「年間行事計画」及び時間割（1 年生用）を参考にしながら、(1)、(2)の 今年一年の自分の願いを基に、今年一年の 「自己課題」を決めます。</p> | <p>●学習の見通しを明らかにし、学習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を図等を用いて明示する。【「主体的な学び」の視点】 ○学習カードAを活用するようにする。</p> <p>●お家の方へのインタビュー活動による体験活動を行うようにする。【「深い学び」の視点】 【「対話的な学び」の視点】 ○学習カードBを活用するようにする。</p> <p>●生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていけるように学校生活に関する問題を取り上げるようにする。【「主体的な学び」の視点】 【「深い学び」の視点】 ○学習カードCの項目1を活用するようにする。</p> |
| 2、情報の収集 (3H) | <p>(5) 自己課題の解決方法についての情報収集を行う前に、まず、自分自身で解決方法を考える。 ①「自己課題を解決するために、具体的に何を するか?」（どんなことを努力するか? どん なことを続けるか? どんなことを心掛ける か?）を考える。</p> <p>(6) 2、3年生にインタビューして、自己 課題を解決するための方法の情報を集める。 ①先輩方にインタビューして自分の課題を解決 する方法を集める。 ・インタビューを行いながら、1年生と2年生 の交流を行う。 ・別の時間にインタビューを行いながら、1 年生と3年生の交流を行う。</p> | <p>○学習カードCの項目2を活用するようにする。</p> <p>●自分に合ったより良い解決方法を得るために、 多様な情報収集をするように対話を促す。【「対 話的な学び」の視点】 ○学習カードCの項目3を活用するようにする。 ○インタビューは、1対1のペアで行い、1年生 全員が2年生及び3年生全員と関われるよう に交代でペアを変えていくようにする。</p> |
| 3、整理・分析 (1H) | <p>(7) 先の(5)と(6)の活動を基に、一 番自分に合った方法を決め出す。</p> | <p>●収集した情報を比較したり、分類したり、関連 付けたりしながら、一番自分に合った解決方法 は何かという「見方・考え方」を意識し、決 めだすよう助言する。【「深い学び」の視点】 ○学習カードCの項目4を活用させる。</p> |
| 4、まとめ・表現 (4H ※学習活動の (11)の指導時数は 除く) | <p>(8) プレゼンテーション・ソフトを用いて 発表の準備をする。 ①プレゼンテーション・ソフトを活用して、 発表内容を次の6画面構成にまとめる。 ・表紙（タイトルと名前）</p> | <p>○文字の大きさを40ポイントとし、無駄な言葉を 削るようにする。この時、必要に応じて友達 と相談しながら協力して進めていくようにする。 ●発表に対する相手意識や目的を明確にすると いう「見方・考え方」を意識しながら、スライ</p> |

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| 【異学年交流の設定】 ③ 1年生と2年生と3年生 | ・ 中学校で成長した点 ・ 高等部の今年一年の自分の願い ・ 今後の自己課題 ・ 自己課題を解決するための方法 ・ 1年生が終わる頃の自分の姿 | ドを6画面構成でまとめ、発表できるようにする。【「深い学び」の視点】 ● 6画面目として「1年生が終わる頃の自分の姿」を作成することで、学習活動のゴールを明確化できるようにする。【「主体的な学び」の視点】 |
| | (9) 2年生と3年生の前で発表する。 | ○ 2年生と3年生に、発表者への感想を一言述べるようにする。 |
| | (10) 2、3年生との交流活動を振り返る。 | ○ アンケート調査に答えたり、授業の感想を書いたりするようにする。 |
| | (11) 相互評価する。 ① 週一回程度、ショート・ホームルーム等を活用して相互評価する。 | ○ 学習カードDを活用するようにする。 |

2) 特別活動（ホームルーム活動）の題材構成

特別活動（ホームルーム活動）の題材構成（全4時間扱い）を表5に示す。なお、特別活動の学習の過程は、文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（2018年）で例示されている学習の過程²⁶⁾を活用した。理由は、問題解決的な学習の過程となっており、本研究の趣旨に合っているからである。

表5、特別活動（ホームルーム活動）の題材構成（2、3年生共通）

| 学習の過程と指導 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|--|
| 1、問題の発見・ 確認 (0.5H) | (1) 「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか？」という課題を把握する。 | ● 学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見いだして解決できるような場を設定する。【「主体的な学び」の視点】 ○ 4月に実施した新入生歓迎会（3年生企画）、清掃オリエンテーション・生活オリエンテーション（2年生企画）での頑張りを想起するよう促しながら、「他にも下級生に先輩として何かできることをしたい」という生徒達の願いを踏まえ、教師から「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか？」という課題を投げかけるようにする。 |
| 2、解決方法等の 話し合い (0.5H) | (2) 先輩として1年生にできることを検討し合う。 ・ 何か教えられることはないか。 ・ 何かアドバイスできることはないか。 ・ 何か協力して取り組めることはないか。 | ○ 1年生の現在の学習状況を報告し、その中で何ができるかを考えるようにする。 （総合的な学習の時間の学習状況など） |
| 3、解決方法の決 定 (1H) | (3) 1年生にとって1学期の重要な学習の一つである総合的な学習の時間の「インタビュー活動」にクラス全員で参加し、その中でどのように1年生と交流するかについて意思決定をする。 ・ 1年生との交流活動に対する自分の目標を決めだす。 | ● 「1年生とどんな交流会にしたいか」を発表しながら、課題の解決方法について多面的・多角的に考えられるようにする。【「対話的な学び」の視点】 |
| 4、決めたことの 実践 (1H) 【異学年交流の設定】 ① 2年生と1年生 ② 3年生と1年生 | (4) 1年生の総合的な学習の時間で行うインタビュー活動にクラス全員で協力参加する。 | ● 先輩として、どのように1年生と関わればよいのかという「見方・考え方」を意識しながら、交流会に参加するようにする。【「深い学び」の視点】 ● 異学年の他者と対話をする中で、上の学年であるという意識だけでなく、互いに学び合うという意識も持ちながら進めるよう適宜アドバイスする。【「対話的な学び」の視点】 ○ 予め2、3年生には、1年生の全員の自己課題を |

| | | |
|--|---|---|
| | | 知らせ、それらに対してどんなアドバイスをするか事前に考えておくようにする。 ○インタビューは、1対1のペアで行い、2年生及び3年生全員が1年生全員と関われるようにペアを代えていくようにする。 |
| 5、振り返り (1H) 【異学年交流の設定】 ③ 1年生と2年生と3年生 | (5) 1年生の総合的な学習の時間のプレゼンテーション大会に参加する。 ・発表した1年生に一言感想を述べる。 | ●先輩として、どのように1年生と関わればよいのか(1年生の発表をどう受け止めればよいのか)という「見方・考え方」を意識しながら、交流会に参加できるようにする。【「深い学び」の視点】 ●異学年の他者と対話をする中で、上の学年であるという意識だけでなく、互いに学び合うという意識も持ちながら進めるよう適宜アドバイスする。【「対話的な学び」の視点】 ○感想発表だけでなく、感想を学習カードEにも書き、授業終了後、1年生にそのコメントを渡せるようにする。 |
| | (6) 1年生との交流活動を振り返る。 | ●1年生との交流活動を通して、これからの自分の生活に何か生かせることはないか振り返るようにする。【「主体的な学び」の視点】 |

(5) 活用した学習カード類

総合的な学習の時間の単元構成(表4参照)及び特別活動の題材構成(表5参照)の「指導上の留意点」で明示した学習カード類について紹介する。

1) 総合的な学習の時間で活用した学習カード及びプレゼンテーション用のスライド

① 学習カード

総合的な学習の時間で活用した学習カードは、全4種類である。学習カードA、B、Cは表6、学習カードDは表7に示した通りである。予め表7へは個々の生徒の名前及び決めだした自己課題を書き出しておき、生徒には評価(◎、○、△)とその理由についてのみ書かせるようにした。なお、表中の学習カードCの項目3以外の斜体は、生徒が記した内容をそのまま表記している。学習カードCの項目3については、2年生と3年生の全員分のアドバイス内容が含まれていること、さらに重複する内容も多数存在していることの2点を考慮し、下崎が本人の同意を得て要約したものを表記することにした。

表 6、学習カード A、B、C

| | | |
|--|--------------|------------|
| 【学習カード A】 | 「自分自身を見つめよう」 | 名前 (A 子) |
| ①「中学校で成長したところは、具体的にどんなところか？」 ・敬語を使つて話が出来るようになった。・先生のお手伝いが出来るようになった。 ・3年生の最後の部活で一試合勝った。 ②「今年一年の自分の願い（こうなりたい、あなりたいこと）は、具体的にどんなことか？」 ・清掃をもっと上手になりたい。・先生にもっと進んであいさつが出来るようになりたい。 | | |
| 【学習カード B】 | | |
| お家の方（お父さん）へのインタビュー調査を行おう！！ ①「中学校で成長したところは、具体的にどんなところだと思いますか？」 ・自分の事をきちんと出来るようになってきた。・料理をやりはじめた。 ・自分の思うように行動出来るようになってきた。 ②「今年一年の（お父さん）の私に対する願いは、具体的にどんなことですか？」 ・自分から清掃も授業もしっかり集中して頑張ること。 ・社会人にむけて、色々なことを学んでほしい。・吸収出来るものは色々学んでほしい。 ③「これからの今年一年の自分の願い（こうなりたい、あなりたいと思うこと）は、具体的にどんなことですか？」 ・清掃をもっと上手になりたい。・友達にもっと仲よくなりしたい。 ・先生に質問したいと思うことがあるならとことん聞きたい。 | | |
| 【学習カード C】 | | |
| 1、今年一年の自分の願いを基に、今年一年の取り組むべき自分の課題を決めよう！！ ①作業時疲れた時のために息をつかない。②友達と自然に話ができるようになる。③授業中、集中する。 2、自分の課題を解決する方法を考えよう！！ ①にげずに集中して頑張る。②自分で積極的に話す。③集中して話を聞く。 3、2年生、3年生にインタビューして、自分の課題を解決する方法の情報を集めよう！！ ①作業以外のことは考えず、最後まで集中すること。もし、作業以外のことを考えたときは最後までやり抜くこと。 少しずつ努力していくこと。とにかく手を休めないこと。 ②友達や先生に積極的に話してみる。はさかしがらずに頑張ること。少しずつ授業で発表してみる。自分の気持ち正直に友達に話すこと。 ③自分の楽しみなことを考えてみる。授業中楽しいことを想像してがまんすること。授業以外のことは考えないで集中すること。授業以外で考えた場合は最後まで頑張ること。 4、2と3を基に、一番自分に合った方法を決めよう！！ ①考えていてもいいが逃げないこと。違うことを考えず物事をこなせるようにすること。 ②友達や先生の授業で積極的に話すこと。はさかしさを消して正直に話すこと。 ③授業時自分の中で楽しみなことを考えること。考えてもいいが最後まで頑張ること。 | | |

表 7、学習カード D

| | |
|--|------------|
| 【学習カード D】 | 名前 (A 子) |
| 1 一週間の自分の課題への取り組みを自己評価しよう！！ (◎：よくできた、○：できた、△：できなかった) ①作業時疲れた時のために息をつかない。 (◎) ②友達と自然に話ができるようになる。 (○) ③授業中、集中する。 (◎) 【理由】 ・清掃を行っている時に終わつたしゅんかんのために息はつくけど、やっている途中ではつかなくなった。 ・自然に話が出来るようになってきた。 ・前やっていた授業と比べてみると今やっている方がいいと思うので、頑張っていきたいです。ため息をしなくなったのはすごいと思いました。 | |
| 2 友達の課題達成の様子を評価してみよう！！ (◎：よくできた、○：できた、△：できなかった) 【 B 男 】 君 (さん) ①床清掃で一人でできるようになる。 (○) 【理由】 ・床清掃ですごく早く出来ていましたね。一人で行うことがありますが、これから先、一人でもできるよう頑張つて下さい。 | |
| 【 C 男 】 君 (さん) ①自分から相手より先に挨拶する。 (○) | |

| | |
|---|--|
| 【理由】 ・ 朝のあいさつの時、はっきりと声が出ていてよかったと思います。自分のペースで少しずつならして行って下さい。 | |
| 【 D 男 】 君（さん） ①先生や友達に対して挨拶、返事、報告を自分からできるように進んで頑張りたい。 (○) ②先生や友達に頼まれたこと、言われたことをできるように頑張りたい。 (○) ③自分から皆のために役に立つことを友達が行動を起こす前にやる。 (○) | |
| 【理由】 ・ 自分から進んでやるということはすごいと思います。自分のことより相手のことをしっかり考えていてすごかったです。 | |
| 【 E 男 】 君（さん） ①作業を頑張る。 (○) ②あくびを止める。 (○) | |
| 【理由】 ・ 作業時のあくびはよくないと思います。でも、頑張ろうとしていることはすごいと思います。これからも集中して頑張ってください。 | |
| 【 F 子 】 君（さん） ①集中力を強化する。 (○) ②作業で気持ちが切れないようになる。 (○) | |
| 【理由】 ・ 授業時めなくなることは誰にでもあります。でもそれをがまんして集中することでさらに強化すると思います。これからも頑張ってください。 | |
| 【 G 男 】 君（さん） ①人の目を見て話す。 (○) | |
| 【理由】 ・ 人の目を見て話すということは、私も出来ません。でも、相手の「のど」のへんを見て話すといいと思います。これからも頑張ってください。 | |
| 【 H 男 】 君（さん） ①体調管理をしっかりする。 (○) ②三食しっかり食べる。 (○) ③体力をつける。 (○) | |
| 【理由】 ・ 体調管理は、私も人のことをあまり言える立場ではありませんが、早く寝て十分なすいみんをとるといいと思います。これからも頑張ってください。 | |

② プレゼンテーション用のスライド

プレゼンテーション・ソフトは、実践校の「情報」の授業でも活用し、生徒が慣れ親しんでいるパワーポイント（Microsoft PowerPoint）を活用した。画面構成は、1画面目は「表紙：タイトルと名前」、2画面目は「中学校で成長した自分」、3画面目は「高等部の今年一年の自分の願い」、4画面目は「今後の自己課題」、5画面目は「自己課題を解決するための方法」、6画面目は「1年生が終わる頃の自分の姿」とした。

この構成の意図は、生徒の実態を踏まえたこと²⁷⁾と、設定する自己課題が単なる思いつきにならないようにすること、の2点からである。特に思いつきにならないようにするために、吉田浩之が述べている目標設定に関する指導のポイント²⁸⁾を参考にしながら、次の手順で自己課題を設定させ

るようにした。まず、中学校までの自分の成長した姿を振り返らせながら、高等部でどんな自分になりたいかという「願い」をお家の方へのインタビュー活動を導入しながら明確化させるようにした²⁹⁾。次に、その願いを実現させる上で何が自分にとって課題になっているかをじっくりと考えさせ、「自己課題」を設定させるようにした。そして、設定した「自己課題を解決するための方法」を2、3年生との交流活動を通して明確化させ、最後に「1年生が終わる頃の自分の姿」をイメージさせて学習の見通しを持たせるようにした。

2) 特別活動で活用した学習カード

特別活動で活用した学習カードは、全1種類である。この学習カードEは、表8に示した通りである。なお、同様に表中の斜体は、実際に生徒が記したものである。

表8、学習カードE

| 名前 (<i>I 男</i>) ※点線で切り離し、直接本人に渡そう! | |
|--|-------------------|
| (A 子さんへ) 僕たちがアドバイスしたことをちゃんと行おうとしてすごいと思った。 | (<i>I 男</i>) より |
| (B 男さんへ) 今発表したことをやっていけばうまくなると思います。 | (<i>I 男</i>) より |
| (C 男さんへ) まわりを見てこうだし、友達がこまっていたら助け合う。 | (<i>I 男</i>) より |
| (D 男さんへ) 今から友達や先生にあいさつ、返事をし、助け合う力をつけてください。 | (<i>I 男</i>) より |
| (E 男さんへ) よそ見をしたり、あくびをしたり、人がいやがることをしないようにする。 | (<i>I 男</i>) より |
| (F 子さんへ) 集中力を身につけ、作業を頑張ってください。 | (<i>I 男</i>) より |
| (G 男さんへ) 人の話を聞くときは、人の顔を見て話したり、聞いたりするとよいと思う。 | (<i>I 男</i>) より |
| (H 男さんへ) 体力をつけ、毎日学校に登校しよう。 | (<i>I 男</i>) より |
| (I 年生のみなさんへ) 僕たちも同じ時期があったので、あきらめないでがんばってください。 | (<i>I 男</i>) より |

4 生徒の実際の反応

開発した授業における生徒の実際の反応について、①授業後に生徒に実施したアンケート調査の結果、②生徒の表現物（授業の感想等）、③授業者による評価の3点から述べることにする。

(1) アンケート調査の結果

授業後に生徒に実施したアンケート調査の結果を表9、表10、表11に示す。表9は1年生を対象に、表10は2年生を対象に、表11は3年生を対象にした調査結果をそれぞれ示したものである。

表9、1年生のアンケート調査の結果（全8名回答）

| |
|--|
| 1、「自己を見つめよう」という授業に対して、次は何をやるのかを意識しながら見通しを持って、意欲的に取り組むことができたか？ ●とてもできた・・・1名（D男、） ●少しできた・・・7名（A子、B男、C男、E男、F子、G男、H男） ●あまりできなかった・・・0名 ●まったくできなかった・・・0名 |
| 2、自分自身を見つめたり、お家の方へインタビューしたりすることを通して、今年一年の自分の願いをはっきりさせることができたか？ ●とてもできた・・・3名（A子、C男、E男） ●少しできた・・・5名（B男、D男、F子、G男、H男） ●あまりできなかった・・・0名 ●まったくできなかった・・・0名 |
| 3、今年一年の自分の願いを基に、自己課題を設定することができたか？ ●とてもできた・・・4名（A子、B男、D男、E男） ●少しできた・・・4名（C男、F子、G男、H男） ●あまりできなかった・・・0名 ●まったくできなかった・・・0名 |
| 4、2、3年生の先輩たちと交流しながら、自己課題を解決するための方法についてインタビューしたことにより、自分の考えを広げたり、深めたりすることができたか？ ※考えを広げる：色々な考えに気付くこと、考えを深める：自分の考えが前よりもはっきりすること ●とてもできた・・・2名（B男、E男） ●少しできた・・・6名（A子、C男、D男、F子、G男、H男） ●あまりできなかった・・・0名 ●まったくできなかった・・・0名 |
| 5、2、3年生の先輩たちからもらったアドバイスを基に、自分に最も合った「自己課題を解決するための方法」を決め出すことができたか？ ●とてもできた・・・4名（A子、B男、D男、E男） ●少しできた・・・4名（C男、F子、G男、H男） ●あまりできなかった・・・0名 ●まったくできなかった・・・0名 |

| |
|---|
| 6、今まで取り組んできたことを基にしながら、プレゼンテーション・ソフトを使って6つの画面に整理し、まとめることができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・3名（B男、C男、D男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・5名（A子、E男、F子、G男、H男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 7、自己課題が解決した、「1年生が終わる頃の自分の姿」を目指して頑張っているという気持ちを持つことができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・2名（D男、E男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・6名（A子、B男、C男、F子、G男、H男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |

表9の1年生のアンケート調査の結果では、7つの全質問項目において、生徒全員による肯定的な回答を得ることができた。

表10、2年生のアンケート調査の結果（全6名回答）

| |
|--|
| 1、1年生との交流活動に意欲を持って参加することができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・2名（I男、K男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・4名（J子、L男、M男、N男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 2、1年生との交流活動では、先輩としてどう関わればよいかという自分なりの目標を決めて、一人一人の1年生に開関することができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・0名 |
| ●少しできた・・・・・・・・・・4名（I男、J子、K男、L男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・2名（M男、N男） |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 3、1年生にアドバイスをする場面、逆に1年生との関わりから自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができましたか？ |
| ※思いや考えを広げる：色々な思いや考えに気付くこと、思いや考えを深める：自分の思いや考えが前よりもはつきりすること |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・1名（L男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・4名（I男、J子、K男、N男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・1名（M男） |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| また、具体的にどんな思いや考えが広がりましたか？あるいは、深まりましたか？ |
| ・もって1年生にアドバイスをしようと思った。（I男） |
| ・人それぞれのので一人一人にその人に合ったことを話したい。（J子） |
| ・もう少し先輩らしくしたいと思った。（K男） |
| ・後輩にしっかり教えられるようになりたいと思った。（L男） |
| ・自分のやり方をちゃんと言えた。（M男） |
| ・一人一人にしっかりと伝えられたと思った。（N男） |
| 4、1年生のプレゼンテーションを聞いて、自分は1年生の役に立てたという気持ちを持つことができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・3名（I男、K男、L男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・3名（J子、M男、N男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・0名 |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 5、1年生のプレゼンテーションを聞いて、1年生に負けずに、さらに自分も今年一年頑張っているという気持ちを持つことができましたか？ |
| ●とてもできた・・・・・・・・・・4名（I男、J子、K男、L男） |
| ●少しできた・・・・・・・・・・2名（M男、N男） |
| ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 |
| ●まったくできなかった・・・・・・0名 |

| |
|---|
| 6、1年生の交流活動を通して、先輩という立場に関わることの大切さについて理解することができましたか？ ●とてもできた・・・・・・・・・・4名（I男、J子、L男、M男） ●少しできた・・・・・・・・・・2名（K男、N男） ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 7、あなたが考える「理想の先輩」とは？ ・コミュニケーションが取れる先輩（I男） ・なやみなど人それぞれで違うからこれからも分からないことは教えて、自分自身のやりたいことに挑戦する先輩（J子） ・困っている時は自分から助けられる先輩（K男） ・コミュニケーションをとりながらいろんなことを説明できる先輩（L男） ・いろいろなアドバイスができる先輩（M男） ・困った人にアドバイスや話しかけられる先輩（N男） |

表10の2年生のアンケート調査の結果では、質問項目1と質問項目4、質問項目5、質問項目6では、生徒全員による肯定的な回答を得ることができた。しかし、質問項目2「1年生との交流活動では、先輩としてどう関わればよいかという自分なりの目標を決めて、一人一人の1年生に関わることができましたか？」ではM男とN男が、質問項目3「1年生にアドバイスをする場面で、逆に1年生との関わりから自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができましたか？」ではM男が、それぞれ否定的な回答を示した。

また、最後の質問項目7では、1年生との交流活動に参加する中で、感じたことや自覚化したこと（質問項目4に関連：「自分は1年生の役に立ったのか」など）、理解したこと（質問項目6に関連：「先輩という立場に関わることの大切さ」等）等に関連付けながら、どの生徒も自分なりの言葉でしっかりと「理想の先輩像」を言語化し、表すことができた。

表11、3年生のアンケート調査の結果（全7名回答）

| |
|---|
| 1、1年生との交流活動に意欲を持って参加することができましたか？ ●とてもできた・・・・・・・・・・5名（O子、R子、S男、T男、U子） ●少しできた・・・・・・・・・・2名（P子、Q男） ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 ●まったくできなかった・・・・・・0名 |
| 2、1年生との交流活動では、先輩としてどう関わればよいかという自分なりの目標を決めて、一人一人の1年生に関わることができましたか？ ●とてもできた・・・・・・・・・・6名（O子、P子、R子、S男、T男、U子） ●少しできた・・・・・・・・・・1名（Q男） ●あまりできなかった・・・・・・・・0名 |

| |
|--|
| ●まったくできなかった・・・・0名 |
| <p>3、1年生にアドバイスをする場面で、逆に1年生との関わりから自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができましたか？</p> <p>※思いや考えを広げる：色々な思いや考えに気付くこと、思いや考えを深める：自分の思いや考えが前よりもはつきりすること</p> <p>●とてもできた・・・・2名 (R子、T男)</p> <p>●少しできた・・・・4名 (O子、P子、S男、U子)</p> <p>●あまりできなかった・・・・1名 (Q男)</p> <p>●まったくできなかった・・・・0名</p> <p>また、具体的にどんな思いや考えが広がりましたか？あるいは、深まりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に頼りになる先輩になりたい。(O子) ・もっとうまく話をしたり、自分から1年生に話せるようにしたい。(P子) ・アドバイスできることは、しようと思った。(Q男) ・もっと先輩として1年生にアドバイスをしたかった。(R子) ・1年生を助けられるような先輩になりたい。(S男) ・1年生にむけてこれからもしっかりと質問に答えていきたい。(T男) ・色々なことを考えながらアドバイスができた。(U子) |
| <p>4、1年生のプレゼンテーションを聞いて、自分は1年生の役に立てたという気持ちを持つことができましたか？</p> <p>●とてもできた・・・・4名 (O子、Q男、S男、T男)</p> <p>●少しできた・・・・2名 (R子、U子)</p> <p>●あまりできなかった・・・・1名 (P子)</p> <p>●まったくできなかった・・・・0名</p> |
| <p>5、1年生のプレゼンテーションを聞いて、1年生に負けずに、さらに自分も今年一年頑張っていこうという気持ちを持つことができましたか？</p> <p>●とてもできた・・・・5名 (O子、Q男、R子、S男、T男)</p> <p>●少しできた・・・・2名 (P子、U子)</p> <p>●あまりできなかった・・・・0名</p> <p>●まったくできなかった・・・・0名</p> |
| <p>6、1年生の交流活動を通して、先輩という立場に関わることの大切さについて理解することができましたか？</p> <p>●とてもできた・・・・0名 (O子、Q男、R子、S男、T男)</p> <p>●少しできた・・・・0名 (P子、U子)</p> <p>●あまりできなかった・・・・0名</p> <p>●まったくできなかった・・・・0名</p> |
| <p>7、あなたが考える「理想の先輩」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あこがれられる先輩、アドバイスができる先輩 (O子) ・優しい先輩、丁寧に教えてくれる先輩、時と場を考えている先輩、時に厳しく時に優しい先輩、自分からキビキビ動ける先輩、1・2年生を引っ張っていきける先輩 (P子) ・アドバイスをしてあげる先輩、優しく教える先輩 (Q男) ・誰にでも優しく、親切な先輩 (R子) ・1年生、2年生のお手本になれるような先輩 (S男) ・1年生の質問にしっかりと答えられる先輩 (T男) ・誰とでも話ができる先輩、頼まれたことに素早く行動がとれる先輩、笑顔で話ができる先輩 (U子) |

表11の3年生のアンケート調査の結果では、質問項目1と質問項目2、質問項目5、質問項目6では、生徒全員による肯定的な回答を得ることができた。しかし、質問項目3「1年生にアドバイスをする場面で、逆に1年生との関わりから自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができましたか？」ではQ男が、質問項目4「1年生のプレゼンテーションを聞いて、自分は1年生の役に立てたという気持ちを持つことができましたか？」ではP子が、それぞれ否定的な回答を示した。

また、最後の質問項目7では、2年生の回答と同様に、1年生との交流活動に参加する中で、感じたことや自覚化したこと（質問項目4に関連：「自分は1年生の役に立ったのか」など）、理解したこと（質問項目6に関連：「先輩という立場に関わることの大切さ」等）を関連付けながら、自分なりの言葉でしっかりと「理想の先輩像」を言語化し、表すことができた。

（2）生徒の表現物

1）1年生の表現物（授業の感想とプレゼンテーション用のスライド）

① 授業の感想

- ・ 一人一人ちがうことや同じことをいっぱい話したのですが、皆さん真剣に話を聞いてくれて、アドバイスや「直したほうがいいところ」を考えて教えてくれたので本当にうれしかったです。（A子）
- ・ とてもきんちょうした。先輩たちにとってもいい質問ができて、いいアドバイスがもらえた。（B男）
- ・ 2、3年生の先輩方にアドバイスを頂いたのを参考にして、やる事ができてよかったです。（C男）
- ・ 自分が思ってることを先輩に話すことができて良かった。言いたいことをスムーズにあわてずにハッキリと言って発表できて良かったと思った。（D男）
- ・ 発表はきんちょうしました。たくさん聞けてよかった。もうちょっと聞けばよかった。（E男）
- ・ 緊張したことは覚えています。（F子）
- ・ 先輩たちの返した答えが良かったり、しゃべれたりできたので、仲良くできたので楽しかったです。（G男）
- ・ いい話が聞けてよかったと思います。いろいろと気もちよかった。（H男）

A 子、B 男、C 男、D 男、E 男、G 男、H 男の感想からは、2、3 年生との交流活動に対して、主体的に取り組んだ姿を確認することができる。F 子の感想からは、緊張して授業に臨んだ姿も確認することができる。

② プレゼンテーション用のスライド

プレゼンテーション・ソフトで作成した個々の生徒のスライドを表12で紹介する。なお、表中の「作業」とは作業学習のことであり、作業内容は校舎の床清掃、窓清掃、トイレ清掃である。

表12、プレゼンテーション用のスライド（6 画面）

| | | | | | |
|----------|--|--|---|---|--|
| 自分を見つめよう | 中学校で成長した自分 | 高等部の今年一年の自分の願い | 今後の自己課題 | 自己課題を解決するための方法 | 1 年生が終わる頃の自分の姿 |
| A 子 | <ul style="list-style-type: none"> 敬語を使って話が出来るようになった。 先生のお手伝いが出来るようになった。 柔道の試合で1勝した。 | <ul style="list-style-type: none"> 清掃を上手くなりたい。 友達と仲良くなりたい。 質問したいこと、されたことに素早くこたえたい。とことん聞きたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ①作業時疲れた時のために息をつかない。 ②友達と自然に話ができるようになる。 ③授業中、集中する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①の作業について・考え行ってもいいが逃げないこと。 ・違うことを考えず物事をこなせるようにすること。 ②の友達について・友達や先生の授業で積極的に話すこと。 ・恥かしさを消して正直に話すこと。 ③の授業について・授業時自分の中で楽しみなことを考えること。 ・考えてもいいが最後まで頑張ること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業に集中し、指摘されないようになっている。 ・友達と正直にシンプルに話が出来るようになっている。 ・授業が好きになり、ハキハキしている。 |
| 自分を見つめよう | 中学校で成長した自分 | 高等部の今年一年の自分の願い | 今後の自己課題 | 自己課題を解決するための方法 | 1 年生が終わる頃の自分の姿 |
| B 男 | <ul style="list-style-type: none"> 身長が伸びた。 数学で計算が得意になった。 パソコンのキーボードが打てるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> 床清掃を上手になりたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ①床清掃が一人で行えるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ①の床清掃について・どんどん積み重ねる。 ・とにかく慣れる。 ・すべての道具の使い方をマスターする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人で床清掃ができるようになる。 ・どんなによれていてもキレイにすることができる。 |
| 自分を見つめよう | 中学校で成長した自分 | 高等部の今年一年の自分の願い | 今後の自己課題 | 自己課題を解決するための方法 | 1 年生が終わる頃の自分の姿 |
| C 男 | <ul style="list-style-type: none"> 母の高い要求にもこたえられるようになった。 勉強の分らない所を教えるようになった。 挨拶がよかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 先輩と仲良くしたい。 クラスの人々と仲良くしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ①自分から相手より先に挨拶する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①の挨拶について・勇気を持って友達の良い姿を見たらすぐ挨拶する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達や会った人と挨拶が普通にできる。 ・クラスの人々と仲良くやっている。 |
| 自分を見つめよう | 中学校で | 高等部の今年一年 | 今後の自己課題 | 自己課題を解決す | 1 年生が終わる |

| | 成長した自分 | 自分の願い | | するための方法 | 頃の自分の姿 |
|----------|---|--|--|--|--|
| D 男 | <p>・人を思いやる心が成長してきたと思う。</p> <p>・病気の祖母の気遣いをしている所は、特に良いと思う。</p> <p>・朝起きて自転車に乗り、学校に行ける。</p> | <p>・自分のやるべきことをやり、みんなから必要とされる、認められる人になりたい。</p> <p>・協力し合い、難しいことがないような楽しい1年でいられるにしたい。</p> <p>・できないことやまだ挑戦してないことにチャレンジして上手にできるようになりたい。</p> | <p>①先生や友達に対して挨拶、返事、報告を自分からできるように進んで頑張りたい。</p> <p>②先生や友達に頼まれたこと、言われたことをできるように頑張りたい。</p> <p>③自分から皆のために役立つことを友達が行動を起こす前にやる。</p> | <p>①の挨拶について ・挨拶、返事、報告をしっかりできるように頑張る。 ・相手が挨拶する前に自分から先に挨拶をする。</p> <p>②の気持ちについて ・相手の事、気持ちをしっかり知る。 ・不安な友達がいたら声をかける。</p> <p>③の友達について ・友達が助けを求めているとき、声をかけて手伝う。</p> | <p>・今の1年生が先輩になった時、新1年生に受け継いでいける先輩になっている。</p> <p>・皆のために頑張って助け合える自分。</p> <p>・後輩に丁寧に色々なことを教えられる心強い先輩になっている自分。</p> |
| 自分を見つめよう | <p>中学校で成長した自分</p> <p>・遅刻しなかった。</p> | <p>高等部の今年一年の自分の願い</p> <p>・勉強を頑張る。</p> | <p>今後の自己課題</p> <p>・作業を頑張る。</p> | <p>自己課題を解決するための方法</p> <p>①の作業について ・モップで隅々までトイレの床をきれいに磨く。</p> <p>②のあくびについて ・がまんをする。</p> | <p>1年生が終わる頃の自分の姿</p> <p>・新入生が入ってきたら床清掃を教えられるようになる。</p> <p>・あくびをしない。</p> |
| 自分を見つめよう | <p>中学校で成長した自分</p> <p>・あんまり学校を休まなくなった。 ・自分のことをよく知ろうとしていた。 ・苦手なことと得意なことの区別がついた。</p> | <p>高等部の今年一年の自分の願い</p> <p>・作業の集中力を身につける。</p> | <p>今後の自己課題</p> <p>①集中力を強化する。</p> <p>②作業で気持ちが切れないようにする。</p> | <p>自己課題を解決するための方法</p> <p>①の集中力について ・考えると集中が切れるから考えない。</p> <p>②の気持ちについて ・周りのゴミを拾おうと思って集中する。</p> | <p>1年生が終わる頃の自分の姿</p> <p>・作業を何時間でも集中できる。</p> |
| 自分を見つめよう | <p>中学校で成長した自分</p> <p>・集団行動がとれる。 ・休まずに学校に行ける。 ・挨拶ができる。</p> | <p>高等部の今年一年の自分の願い</p> <p>・中学の時よりもコミュニケーションをする力をつけたい。</p> | <p>今後の自己課題</p> <p>①人の目を見て話す。</p> | <p>自己課題を解決するための方法</p> <p>①の人の目を見て話すことについて ・家族や友人の目を見ながらおもしろいことやその日あったことを話す。</p> | <p>1年生が終わる頃の自分の姿</p> <p>・友達や家族、親しい人達、初めての人とも話ができるようになっている。</p> |
| 自分を見つめよう | <p>中学校で成長した自分</p> <p>・少し学校を休まなくなった。</p> | <p>高等部の今年一年の自分の願い</p> <p>・学校を休まない。</p> | <p>今後の自己課題</p> <p>①体調管理をしっかりする。 ②三食しっかり食べる。 ③体力をつける。</p> | <p>自己課題を解決するための方法</p> <p>①の体調管理について ・早寝早起き。 ②の三食について ・休みの日もしっかり食べる。 ③の体力について ・体育の授業をしっかり受ける。</p> | <p>1年生が終わる頃の自分の姿</p> <p>・毎日、自信を持って休まないで学校に行っている。 ・やる気が出ている。</p> <p>・疲れない体になっている。</p> |

表12の通り、どの生徒も「今年一年の自分の願い」の明確化→「自己課

題」の設定→「自己課題の解決方法」の理解・選択→「自己課題を解決した未来の姿」という流れに沿って、思考し、判断し、そして表現している。

なお、A 子は自己課題の①「作業時疲れた時にため息をつかない」の解決方法として、2つの方法を挙げている。一つ目は「考え行ってもいいが逃げないこと」、二つ目は「違うことを考えず物事をこなせるようにすること」と、一見矛盾する2つの方法を挙げている。しかし、A 子によれば、「違うことを考えてしまった場合」と「違うことを考えない場合」の双方の場合が自分にはあることを想定して決めだしたということである。このことから、A 子は自己課題の解決方法を自己理解に基づいて選択しており、彼女の中では一貫したものとなっている。

2) 2年生の表現物（授業の感想）

- ・ しっかりとアドバイスができた。アドバイスやそうだんにのれたりできるようになった。1年もがんばろうとしていて、自分も今までよりがんばろうと思った。(I 男)
- ・ 一人一人の意見や思っていることが聞けてよかったし、色々と知れてよかったです。(J 子)
- ・ しっかりとアドバイスをしたり、聞けたりできてよかったです。もっと先輩らしくしていきたいです。(K 男)
- ・ しっかりと1年生と交流できてよかったです。1年生は教えられたことをしっかりやっているので自分の教え方が成長したなあと思いました。みんなしっかり発表できていたのでよかったです。(L 男)
- ・ 自分のまだ足りない部分がよくわかりました。ちゃんとするというしきをもてた。(M 男)
- ・ 1年生にうまくアドバイスができなかったけど、伝わってればいいです。1年生は、先のことや自分のことをしっかり考えていてすごいなあと思いました。(N 男)

これらの生徒の授業の感想から、1年生との交流活動を通して、自己理解に基づいて成長した自分に気付けた生徒（I男、L男）や、自己理解に基づいて自己課題が認識できた生徒（I男、K男、M男）及び他者理解が図れた生徒（J子）、さらに1年生の良さや頑張りに気付くなど、他者理解を深めることができた生徒（N男）を確認することができる。

3) 3年生の表現物（授業の感想）

- ・ 1年生全員の目標や課題が分かった。（O子）
- ・ あまりアドバイスがうまく伝えられなかったと思いました。もっとうまくアドバイスを伝えたいと思った。（P子）
- ・ 1年のみなさんの目標がわかりやすくて良かったです。1年のみんなにアドバイスが出来て良かったです。（Q男）
- ・ 一人一人が、しっかりと目標があって良いなあと思ったし、発表も上手くてびっくりしました。1年生の目標を聞いて、自分ももう少しこうなっていきたいと思いました。一人一人がしっかりと意見を言っていて良かった。（R子）
- ・ 1年生のなやみを聞いて自分なりの解決さくを話せたと思う。1年生のことをよく知れたと思う。（S男）
- ・ 1年生の質問にしっかりと答えることができました。1年生が一人一人質問を言って、先輩たちから答えられた意見をしっかりとメモを紙にとって勉強しているのがよかったと思いました。（T男）
- ・ 色々な意見など聞くことができたりして、言葉をちゃんと返すことができました。1年生にはいい経験だと思いました。（U子）

これらの生徒の授業の感想から、1年生との交流活動で1年生のインタビューに先輩として応答し、役に立てたという満足感などを得ることができた生徒（Q男、S男、T男、U子）、2年生と同様に1年生との交流活動を通して、自己理解を基に自己課題を認識できた生徒（P子、R子）及

び他者理解が図れた生徒（O 子、S 男）、さらに 1 年生の良さや頑張り
に気付くなど、他者理解をより深めることができた生徒（Q 男、R 子、T
男）を確認することができる。

（3）授業者による評価

授業者の下崎による評価を表13、表14、表15³⁰⁾に示す。表13は1年生の
評価を、表14は2年生の評価を、表15は3年生の評価をそれぞれ示してい
る。なお、評価のやり方は、下崎が十分に慣れている3段階（◎：十分に
目標を達成している、○：目標を達成している、△：目標を達成していな
い）³¹⁾による評価とした。

表13、1 年生の評価

| 単元目標 | | A 子 | B 男 | C 男 | D 男 | E 男 | F 子 | G 男 | H 男 |
|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ①2、3年生との交流活動を通して、自己課題の解決に必要な具体的方法について理解することができる。【知識及び技能】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ②今後の自己課題を設定し、それを解決するために必要な情報を集め、整理・分析し、プレゼンテーション・ソフトを用いてまとめ・発表することができる。【思考力、判断力、表現力等】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ③自己課題の解決に向け、積極的に諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 生徒 | 評価を裏付ける生徒の様子 | | | | | | | | |
| A 子 | ①2、3年生との交流活動では、3つの自己課題「●作業時疲れた時にため息をつかない、●友達と自然に話ができるようになる、●授業中、集中する」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を十分に吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した3つの自分の願い「●清掃を上手になりたい、●友達と仲良くなりたい、●質問したいこと、されたことに素早くこたえたい。とことん聞きたい」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを十分に意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これらから一年諸活動にクラスメートと共に頑張って取り組んでいこうとする意欲を十分に高めることができた。 | | | | | | | | |
| B 男 | ①2、3年生との交流活動では、自己課題「●床清掃が一人であるようになる」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を十分に吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した自分の願い「●床清掃を上手になりたい」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを十分に意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これらから一年諸活動にクラスメートと共に頑張って取り組んでいこうとする意欲を十分に高めることができた。 | | | | | | | | |
| C 男 | ①2、3年生との交流活動では、自己課題「●自分から相手より先に挨拶する」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した2つの自分の願い「●先輩と仲良くなりたい、●クラスのみんなと仲良くなりたい」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つな | | | | | | | | |

| | |
|-----|---|
| | がりを意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動にクラスメートと共に頑張って取り組んでいこうとする意欲を十分に高めることができた。 |
| D 男 | ①2、3年生との交流活動では、3つの自己課題「●先生や友達に対して挨拶、返事、報告を自分からできるように進んで頑張りたい、●先生や友達に頼まれたこと、言われたことをできるように頑張りたい、●自分から皆のために役立つことを友達が行動を起こす前にやる」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を十分に吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した3つの自分の願い「●自分のやるべきことをやり、みんなから必要とされる、認められる人になりたい、●協力し合い、難しいことがないような楽しい1年でいられるにしたい、●できないことやまだ挑戦していないことにチャレンジして上手にできるようになりたい」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを十分に意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動に頑張って取り組んでいこうとする意欲を十分に高めることができた。 |
| E 男 | ①2、3年生との交流活動では、2つの自己課題「●作業を頑張る、●あくびを止める」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した2つの自分の願い「●勉強を頑張る、●授業中、あくびをしない」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、E男なりに意識して進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動に頑張って取り組んでいこうとする意欲をE男なりに持つことができた。 |
| F 子 | ①2、3年生との交流活動では、2つの自己課題「●集中力を強化する、●作業で気持ちが切れないようにする」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した自分の願い「●作業の集中力を身に付ける」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動にクラスメートと共に頑張って取り組んでいこうとする意欲を高めることができた。 |
| G 男 | ①2、3年生との交流活動では、自己課題「●人の目を見て話す」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を十分に吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した自分の願い「●中学の時よりもコミュニケーションをする力をつけたい」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを十分に意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動にクラスメートと共に頑張って取り組んでいこうとする意欲を十分に高めることができた。 |
| H 男 | ①2、3年生との交流活動では、3つの自己課題「●体調管理をしっかりする、●三食しっかり食べる、●体力をつける」の解決方法について多くの情報を収集し、自分にとって必要な解決方法を吟味しながら理解し、選択することができた。 ②まず、今年一年の願いをお家の方へのインタビュー活動等を通して明確化し、次に、明確化した自分の願い「●学校を休まない」を基に自己課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集して整理・分析しながら、最後に、プレゼンテーション・ソフトを使って6画面にまとめ・表現するという一連の流れを、つながりを意識して自分の力で進めることができた。 ③自己課題の解決に向けて、これから一年諸活動に頑張って取り組んでいこうとする意欲を高めることができた。 |

表13の結果の通り、設定した3つの目標（単元目標①「2、3年生との交流活動を通して、自己課題の解決に必要な具体的方法について理解することができる」、単元目標②「今後の自己課題を設定し、それを解決するために必要な情報を集め、整理・分析し、プレゼンテーション・ソフトを用いてまとめ・発表することができる」、単元目標③「自己課題の解決に向け、積極的に諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる」）について、A子、B男、C男、D男、F子、G男、H男は3つの単

元目標全てが「◎：十分に目標を達成している」とい評価結果に、E男は3つの単元目標全てが「○：目標を達成している」という評価結果になった。

表14、2年生の評価

| 題材目標 | | I男 | J子 | K男 | L男 | M男 | N男 |
|--|---|----|----|----|----|----|----|
| ①1年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる。【知識及び技能】 | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を見だし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| ③1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 生徒 | 評価を裏付ける生徒の様子 | | | | | | |
| I男 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについてI男なりに理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を決めだすことができた。決めだした目標は「●コミュニケーションをとり、信頼されるようにする」である。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も1年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。 | | | | | | |
| J子 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて十分に理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●分からないことがあって聞いてきたりしたら自分なりに話す」である。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も1年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。 | | | | | | |
| K男 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて十分に理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●先輩らしくする、後輩のお手本となる」である。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も1年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。 | | | | | | |
| L男 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについてL男なりに理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を決めだすことができた。決めだした目標は「●なるべくコミュニケーションをしっかりとるようにする」である。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も1年生と共に頑張っていこうとする意欲を高めることができた。 | | | | | | |
| M男 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについてM男なりに理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという目標について言語化はなされなかったが、1年生にしっかりと伝えようと努力していた。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も負けずに頑張っていこうとする意欲を高めることができた。 | | | | | | |
| N男 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについてN男なりに理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を苦勞しながらも自力で決めだすことができた。決めだした目標は「●うまく1年生にアドバイスを教えられるように話をする」である。 | | | | | | |

| | |
|--|---|
| | ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、さらに自分も1年生と共に頑張っていこうとする意欲を高めることができた。 |
|--|---|

表14の結果の通り、設定した3つの題材目標の内、題材目標①「1年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる」は、J子、K男が「◎：十分に目標を達成している」という評価結果に、I男、L男、M男、N男が「○：目標を達成している」という評価結果になった。題材目標②「『さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか』という課題を見だし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる」は、I男、J子、K男、L男、N男が「◎：十分に目標を達成している」という評価結果に、M男が「○：目標を達成している」という評価結果になった。題材目標③「1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる」は、生徒全員が「◎：十分に目標を達成している」という評価結果になった。

表15、3年生の評価

| 題材目標 | | O子 | P子 | Q男 | R子 | S男 | T男 | U子 |
|--|--|----|----|----|----|----|----|----|
| ①1年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる。【知識及び技能】 | | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を見だし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ③1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】 | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| 生徒 | 評価を裏付ける生徒の様子 | | | | | | | |
| O子 | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについてO子なりに理解することができた。 ②「さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を決めだすことができた。決めた目標は「●1年生と少しでも話せるように関わりたい」である。 ③1年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする1年生の姿に共感しながら、O子なりに自分も頑張っていこうとする意欲を持つことができた。 | | | | | | | |
| | ①1年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの | | | | | | | |

| | |
|-----|--|
| P 子 | <p>大切なについて P 子なりに理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を決めだすことができた。決めだした目標は「●相手に伝わるように話す」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、P 子なりに自分も頑張っていこうとする意欲を持つことができた。</p> |
| Q 男 | <p>① 1 年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて十分に理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●ちゃんと話を聞いてアドバイスをする」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、さらに自分も 1 年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。</p> |
| R 子 | <p>① 1 年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて R 子なりに理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●1 年生に優しく、丁寧なアドバイスをする」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、さらに自分も 1 年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。</p> |
| S 男 | <p>① 1 年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて十分に理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●しっかりと話を聞いて自分なりの答えを教える」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、さらに自分も負けずに頑張っていこうとする意欲を高めることができた。</p> |
| T 男 | <p>① 1 年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて T 男なりに理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標をしっかりと決めだすことができた。決めだした目標は「●1 年生に質問されたことをしっかりと返す」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、さらに自分も 1 年生と共に頑張っていこうとする意欲を十分に高めることができた。</p> |
| U 子 | <p>① 1 年生との交流活動を通して、学校生活を充実させていくために、先輩として下級生に指導・助言等をしていくことの大切さについて U 子なりに理解することができた。</p> <p>②「さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか」という課題を自分事として受け止めながら、課題解決の話し合いを通して、1 年生との交流活動に先輩としてどう関わっていくかという自分なりの目標を決めだすことができた。決めだした目標は「●自分から聞かれた質問を答える、●やさしく質問を答える」である。</p> <p>③ 1 年生との交流活動を通して、設定した自己課題を解決するために今年一年頑張っていこうとする 1 年生の姿に共感しながら、U 子なりに自分も頑張っていこうとする意欲を持つことができた。</p> |

表15の結果の通り、設定した3つの題材目標の内、題材目標①「1 年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる」は、Q 男、S 男が「◎：十分に目標を達成している」という評価結果に、O 子、P 子、R 子、T 男、U 子が「○：目標を達成している」という評価結果になった。題材目標②「『さらに先輩として 1 年生に何かできることはないだろうか』という課題を見だし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる」は、生徒全員が「◎：目標を十分に達成している」という評価

結果になった。題材目標③「1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる」は、Q男、R子、S男、T男が「◎：十分に目標を達成している」という評価結果に、O子、P子、U子が「○：目標を達成している」という評価結果になった。

5 考察

ここでは、先の「4 生徒の実際の反応」で示した、①授業後に生徒に実施したアンケート調査の結果、②生徒の表現物（授業の感想等）、③授業者による評価の3つの内容を基にしながら、各学年の学びを「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点から分析し、これを基に開発した授業の有用性について考察する。

なお、2年生と3年生は授業内容及びアンケートの質問項目が共通していることから、一緒にまとめて考察を進めていくことにする。

（1）1年生の学びの考察

1) アンケート調査の結果の分析

アンケートの質問項目と「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びとの関係は、以下の通りである。

まず、質問項目1『『自己を見つめよう』という授業に対して、次は何をやるのかを意識しながら見通しを持って、意欲的に取り組むことができましたか?』と質問項目7「自己課題が解決した、『1年生が終わる頃の自分の姿』を目指して頑張っていこうという気持ちを持つことができましたか?」は、「主体的な学び」の実現について問うたものである。

次に、質問項目2「自分自身を見つめたり、お家の方へインタビューし

たりすることを通して、今年一年の自分の願いをはっきりさせることができましたか？」と質問項目4「2、3年生の先輩たちと交流しながら、自己課題を解決するための方法についてインタビューしたことにより、自分の考えを広げたり、深めたりすることができましたか？」は、「対話的な学び」の実現について問うたものである。

最後に、質問項目3「今年一年の自分の願いを基に、自己課題を設定することができましたか？」と質問項目5「2、3年生の先輩たちからもらったアドバイスを基に、自分に最も合った『自己課題を解決するための方法』を決め出すことができましたか？」、質問項目6「今まで取り組んできたことを基にしながら、プレゼンテーション・ソフトを使って6つの画面に整理し、まとめることができましたか？」は、「深い学び」の実現について問うたものである。ちなみに質問項目3と質問項目5は、先述した「深い学び」の定義にある、「問題を見いだして解決策を考えること」に、質問項目6は、同様に「深い学び」の定義にある、「情報を精査して考えを形成すること」にそれぞれ対応している。

これら7つの質問項目に対して、生徒全員による肯定的な回答を得ることができたこと（表9参照）から、生徒の自己評価において、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたことを確認することができる。

2) 生徒の表現物の分析

授業の感想からは、総合的な学習の時間の探究的な学習の過程の中で設定した2、3年生との交流活動で、生徒は「主体的な学び」の実現ができたことを確認することができる。また、プレゼンテーション用のスライドからは、どの生徒も一番自分に合った解決方法は何かという「見方・考え方」や、発表に対する相手意識や目的を明確にするという「見方・考え方」などを働かせながら、「深い学び」の定義にある、「問題を見いだして

解決策を考えること」及び「情報を精査して考えを形成すること」ができたことを確認することができる。

3) 授業者による評価の分析

単元目標とアンケートの質問項目との関係は、次の通りである。単元目標①「2、3年生との交流活動を通して、自己課題の解決に必要な具体的方法について理解することができる」は、「対話的な学び」を問うた質問項目4と「深い学び」を問うた質問項目5に、単元目標②「今後の自己課題を設定し、それを解決するために必要な情報を集め、整理・分析し、プレゼンテーション・ソフトを用いてまとめ・発表することができる」は、「対話的な学び」を問うた質問項目2と「深い学び」を問うた質問項目3と質問項目6に、単元目標③「自己課題の解決に向け、積極的に諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる」は、「主体的な学び」を問うた質問項目7に、それぞれ対応している。

これらの設定した3つの単元目標の全てにおいて、生徒全員が目標を達成することができた(表13参照)。このことから、生徒の自己評価だけでなく、授業者による評価においても、1年生の生徒は「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたことを確認することができる。

4) 考察

まず、アンケート調査の結果から考察する。7つの質問項目に対して、生徒全員が肯定的な回答を行い(表9参照)、自己評価において、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたのは、単元構成の「指導上の留意点」(表4参照)で明示した「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点の手立てが、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

具体的には、「主体的な学び」の視点の手立ての「学習の見通しを明ら

かにし、学習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を図等を用いて明示する」は、質問項目1の回答に、同じ視点の手立ての「6画面目として『1年生が終わる頃の自分の姿』を作成することで、学習活動のゴールを明確化できるようにする」は、質問項目7の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

「対話的な学び」の視点の手立ての「自分に合ったより良い解決方法を得るために、多様な情報収集をするように対話を促す」は、質問項目4の回答に影響を与えたと解釈することができる。

「深い学び」の視点の手立ての「収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、一番自分に合った解決方法は何かという『見方・考え方』を意識し、決め出すようにする」は、質問項目5の回答に、同じ視点の手立ての「発表に対する相手意識や目的を明確にするという『見方・考え方』を意識しながら、スライドを6画面構成でまとめ、発表できるようにする」は、質問項目6の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

「深い学び」の視点と「対話的な学び」の視点の二つの学びの視点の手立ての「お家の方へのインタビュー活動による体験活動を行うようにする」は、質問項目2の回答に、「主体的な学び」の視点と「深い学び」の視点の二つの学びの視点の手立ての「生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていけるように学校生活に関する課題を取り上げるようにする」は、質問項目3の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

次に、生徒の表現物について考察する。授業の感想で、1年生の生徒の2、3年生との交流活動で「主体的な学び」の実現ができた姿を窺うことができたのは、同様に単元構成の「指導上の留意点」（表4参照）で示した、「主体的な学び」の視点の手立ての「学習の見通しを明らかにし、学

習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を図等を用いて明示する」が、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

このことは、先述の通り、1年生のアンケートの質問項目1『自己を見つめよう』という授業に対して、次は何をやるのかを意識しながら見通しを持って、意欲的に取り組むことができましたか?」に対する生徒全員の肯定的な回答結果(表9参照)からもその手立ての効果を確認することができる。

また、プレゼンテーション用のスライドで、どの生徒も「深い学び」の定義にある、「問題を見いだして解決策を考えること」及び「情報を精査して考えを形成すること」ができたことを確認できたのは、同様に単元構成の「指導上の留意点」(表4参照)で示した、「主体的な学び」の視点と「深い学び」の視点の二つの学びの視点の手立ての「生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていけるように学校生活に関する課題を取り上げるようにする」と、「深い学び」の視点の手立ての「収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、一番自分に合った解決方法は何かという『見方・考え方』を意識し、決め出すようにする」、同じ視点の手立ての「発表に対する相手意思や目的を明確にする」という『見方・考え方』を意識しながら、スライドを6画面構成でまとめ、発表できるようにする」の3つの手立てが、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

このことは、先述の通り、1年生のアンケートの質問項目3「今年一年の自分の願いを基に、自己課題を設定することができましたか?」、質問項目5「2、3年生の先輩たちからもらったアドバイスを基に、自分に最も合った『自己課題を解決するための方法』を決め出すことができましたか?」、質問項目6「今まで取り組んできたことを基にしながら、プレゼンテーション・ソフトを使って6つの画面に整理し、まとめることができ

ましたか」の全生徒による肯定的な回答結果（表9参照）からもそれらの手立ての効果を確認することができる。

最後に、授業者による評価について考察する。設定した3つの単元目標の全てにおいて、生徒全員が目標を達成し（表13参照）、生徒の自己評価だけでなく、授業者による評価においても、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたのは、同様に単元構成の「指導上の留意点」（表4参照）で明示した「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点の手立てが、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

具体的には、単元目標①の達成は、「対話的な学び」の視点の手立ての「自分に合ったより良い解決方法を得るために、多様な情報収集をするように対話を促す」と、「深い学び」の視点の手立ての「収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、一番自分に合った解決方法は何かという『見方・考え方』を意識し、決め出すようにする」が生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

単元目標②の達成は、「深い学び」の視点と「対話的な学び」の視点の二つの学びの視点の手立ての「お家の方へのインタビュー活動による体験活動を行うようにする」、「主体的な学び」の視点と「深い学び」の視点の二つの学びの視点の手立ての「生徒が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていけるように学校生活に関する課題を取り上げるようにする」、「深い学び」の視点の手立ての「発表に対する相手意思や目的を明確にするという『見方・考え方』を意識しながら、スライドを6画面構成でまとめ、発表できるようにする」の3つの手立てが生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

単元目標③の達成は、「主体的な学び」の視点の手立ての「6画面目として『1年生が終わる頃の自分の姿』を作成することで、学習活動のゴー

ルを明確化できるようにする」が生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

以上のことから、1年生の生徒が「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたのは、開発した総合的な学習の時間の授業が、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

(2) 2年生及び3年生の学びの考察

1) アンケート調査の結果の分析

アンケートの質問項目と「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びとの関係は、以下の通りである。

まず、質問項目1「1年生との交流活動に意欲を持って参加することができましたか?」と質問項目5「1年生のプレゼンテーションを聞いて、1年生に負けずに、さらに自分も今年一年頑張っていこうという気持ちを持つことができましたか?」は、「主体的な学び」の実現について問うたものである。

次に、質問項目2「1年生との交流活動では、先輩としてどう関わればよいかという自分なりの目標を決めて、一人一人の1年生に関わることができましたか?」と質問項目3「1年生にアドバイスをする場面で、逆に1年生との関わりから自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができましたか?」は、「対話的な学び」の実現について問うたものである。

最後に、質問項目4「1年生のプレゼンテーションを聞いて、自分は1年生の役に立てたという気持ちを持つことができましたか?」、質問項目6「1年生の交流活動を通して、先輩という立場で関わることの大切さについて理解することができましたか?」、質問項目7「あなたが考える『理想の先輩』とは?」は、「深い学び」の実現について問うたものである。ちなみにこれらの質問項目は、先述した「深い学び」の定義にある、

「知識を相互に関連付けてより深く理解すること」に関連している。

① 2年生のアンケート結果の分析

質問事項1から質問事項6の内、質問項目2と質問項目3以外は、生徒全員による肯定的な回答を得ることができた。また、質問事項7に関しては、先輩としてどのように1年生に関わればよいかという「見方・考え方」を働かせながら1年生との交流活動に参加し、その中で感じたことや自覚化したこと、理解したことなどを関連付けながら、自分なりの言葉でしっかりと「理想の先輩像」を言語化し、「深い学び」の定義にある、「知識を相互に関連付けてより深く理解すること」ができたことを確認することができる。

しかし、質問項目2ではM男とN男が、質問項目3ではM男が、「あまりできなかった」と、否定的な回答を示した（表10参照）。このことから、生徒の自己評価において、I男、J子、K男、L男は、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたことを確認することができるが、M男とN男においては、「主体的な学び」、「深い学び」の実現ができたことは確認することができるが、「対話的な学び」の実現は課題となった。

② 3年生のアンケート結果の分析

質問事項1から質問事項6の内、質問項目3と質問項目4以外は、生徒全員による肯定的な回答を得ることができた。また、先の2年生と同様に質問事項7に関しては、先輩としてどのように1年生に関わればよいかという「見方・考え方」を働かせながら1年生との交流活動に参加し、その中で感じたことや自覚化したこと、理解したことなどを関連付けながら、自分なりの言葉でしっかりと「理想の先輩像」を言語化し、「深い学び」の定義にある、「知識を相互に関連付けてより深く理解すること」ができたことを確認することができる。

しかし、質問項目3ではQ男が、質問項目4ではP子が、「あまりできなかった」と、否定的な回答を示した（表11参照）。このことから、生徒の自己評価において、O子、R子、S男、T男、U子は、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたことを確認することができるが、P子は、「主体的な学び」、「対話的な学び」の実現ができたことは確認することができるが、「深い学び」の実現に関しては、後述する自己評価の面で課題が残り、Q男は、「主体的な学び」、「深い学び」の実現ができたことは確認することができるが、「対話的な学び」の実現は課題となった。

2) 生徒の表現物の分析

2年生の授業の感想からは、特別活動（ホームルーム活動）の学習の過程に設定した1年生との交流活動を通して、生徒は「対話的な学び」を実現し、自己理解や他者理解が図れた姿を確認することができる。また、3年生の授業の感想からも、同様に1年生との交流活動を通して、生徒は「対話的な学び」を実現し、自己理解や他者理解が図れた姿や、さらには人の役に立てたという満足感等が持てた姿も確認することができる。

なお、この人の役に立てたという満足感については、2、3年生のアンケートの質問項目4（「1年生のプレゼンテーションを聞いて、自分は1年生の役に立てたという気持ちを持つことができましたか？」）とも関連している。ちなみに、3年生のP子のみが、この質問項目4に対して否定的な回答を示した（表10及び表11参照）。

3) 授業者による評価の分析

題材目標とアンケートの質問項目との関係は、次の通りである。題材目標①「1年生との交流活動を通して、先輩として下級生に関わっていくことの意義について理解することができる」は、「深い学び」を問うた質問項目4、質問項目6、質問項目7と、「対話的な学び」を問うた質問項目

3に、題材目標②「『さらに先輩として1年生に何かできることはないだろうか』という課題を見いだし、その解決のための話し合いを通して、課題解決に必要な意思決定をすることができる」は、「対話的な学び」を問うた質問項目2に、題材目標③「1年生との交流活動を通して、自分達も1年生に負けずに諸活動に取り組んでいこうとする意欲を持つことができる」は、「主体的な学び」を問うた質問項目5に、それぞれ対応している。

これらの設定した3つの題材目標の全てにおいて、2年生、3年生の生徒全員が目標を達成することができた(表14及び表15参照)。このことから、授業者による評価において、1年生と同様に2年生、3年生も「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたことを確認することができる。

4) 考察

まず、アンケート調査の結果から考察する。質問項目1から質問項目6に対して、2年生のI男、J子、K男、L男、3年生のO子、R子、S男、T男、U子が、肯定的な回答を行い(表10及び表11参照)、さらに質問項目7で、「深い学び」の定義にある、「知識を相互に関連付けてより深く理解すること」ができたのは、題材構成の「指導上の留意点」(表5参照)で明示した「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点の手立てが、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

具体的には、「主体的な学び」の視点の手立ての「学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見い出して解決できるような場を設定する」は、質問項目1の回答に、同じ視点の手立ての「1年生との交流活動を通して、これからの自分の生活に何か生かせることはないか振り返るようにする」は、質問項目5の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

「対話的な学び」の視点の手立ての「『1年生とどんな交流会にしたいか』を発表し合いながら、課題の解決方法について多面的・多角的に考えられるようにする」は、質問項目2の回答に、同じ視点の手立ての「異学年の他者と対話をする中で、上の学年であるという意識だけでなく、互いに学び合うという意識も持ちながら進めるよう適宜アドバイスする」は、質問項目3の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

「深い学び」の視点の手立ての「先輩として、どのように1年生と関わればよいのか（1年生の発表をどう受け止めればよいのか）」という『見方・考え方』を意識しながら、交流会に参加できるようにする」は、質問項目4、質問項目6、質問項目7の回答にそれぞれ影響を与えたと解釈することができる。

また、質問事項2と質問事項3に対して否定的な回答を示した2年生のM男と、質問事項2に対して否定的な回答を示した2年生のN男に関して、授業者であった下崎は、下記のように考察している。

質問事項2を回答する場面で、M男とN男は鉛筆を止め、しばらく考え込むが姿が見られた。結果的に、M男は目標の言語化は図れず、N男は苦勞しながらも何とか自分の力で、「うまく1年生にアドバイスを教えられるように話をする」という目標を設定した。この二人の姿から、「先輩としてどう関わればよいか」という質問内容の具体的なイメージ化が図れなかったことが、質問事項2に対する否定的な回答を示した要因として考えることができる。このとき「どう関わるか」の具体例をM男とN男に明確に示すなどの手立ても必要であった。しかしながら、この質問事項2の回答内容とは別に、実際の交流活動の事前準備では、M男とN男は、1年生が設定した自己課題に対して自分なりの解決策を一生懸命に考え、紙にメモを書き込みな

がら真剣に取り組む姿が確認できたことから、彼らなりに1年生への関わり方の目標を持つことができたと評価することができる。

質問事項3に関しては、M男の「自分ができたこと」に対する自己評価の低さが、M男が質問事項3に対して否定的な回答を示した要因であると考えることができる。実際にM男は、質問事項3の続きの問いである、「また、具体的にどんな思いや考えが広がりましたか？あるいは、深まりましたか？」に対しては、「自分のやり方をちゃんとと言えた」と、自分のやり方が上手くできたことに対する自分なりの気づきができています。さらにM男の表現物である授業の感想（「自分のまだ足りない部分がよく分かりました。ちゃんとするといいういしきをもてた。」）からも、M男の考えの広がりを確認することができます。自己評価の低いM男に対しては、このような一つ一つの頑張りの事実をしっかりとフィードバックし、自覚化を促していくことが重要である。

同様に、質問事項4に対して否定的な回答を示した3年生のP子と、質問事項3に対して否定的な回答を示した3年生のQ男に関して、授業者であった下崎は、下記のように考察している。

先の2年生のM男と同様に、P子とQ男が否定的な回答を示した要因として、「自分が取り組んだこと・自分ができたこと」等に対する自己評価の低さを考えることができる。特にP子は、アンケートの質問事項4の回答や、P子の表現物である授業の感想（「あまりアドバイスがうまく伝えられなかったと思いました。もっとうまくアドバイスを伝えたいと思った。」）からも自己評価の低さを窺うことができる。しかしながら、P子は、質問事項4に対して否定的な回答を示

したが、実際には1年生の発表の中に、自己課題を解決するための方法として、P子がアドバイスした内容を取り入れた発表が多数見られ、P子は十分に1年生に役に立つことができたと評価することができる。

Q男も質問事項3に対して否定的な回答を示したが、質問事項3の続きの問いである、「また、具体的にどんな思いや考えが広がりましたか？あるいは、深まりましたか？」に対しては、1年生とのやり取りを通して、「アドバイスできることは、しようと思った」と、今後の1年生との関わり方についてのQ男なりの気づきがしっかりとできており、Q男も自分の考えを広げることができたと評価することができる。P子やQ男に対しても、M男と同様に、このような頑張りの一つ一つの事実をしっかりとフィードバックし、自覚化を促していくことが重要である。

次に、生徒の表現物について考察する。2年生の授業の感想から、生徒が「対話的な学び」を実現し、自己理解や他者理解が図れた姿を確認することができたのは、また、3年生の授業の感想からも、生徒が「対話的な学び」を実現し、自己理解や他者理解が図れた姿や、さらには人の役に立てたという満足感等が持てた姿を確認することができたのは、同様に題材構成の「指導上の留意点」（表5参照）で示した、「対話的な学びの視点」の手立ての「異学年の他者と対話をする中で、上の学年であるという意識だけでなく、互いに学び合うという意識も持ちながら進めるよう適宜アドバイスする」が生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

このことは、先述の通り、2、3年生用のアンケートの質問項目3の続きの問いである、「また、具体的にどんな思いや考えが広がりましたか？あるいは、深まりましたか？」に対する生徒全員の記述内容（表10及び表11参照）からもその手立ての効果を確認することができる。

最後に、授業者による評価について考察する。2年生、3年生の生徒全員が、設定した3つの題材目標の全てを達成し、授業者による評価において、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたのは、同様に題材構成の「指導上の留意点」（表5参照）で明示した「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点の三つの視点の手立てが、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

具体的には、題材目標①の達成は、「対話的な学び」の視点の手立ての「異学年の他者と対話をする中で、上の学年であるという意識だけでなく、互いに学び合うという意識も持ちながら進めるよう適宜アドバイスする」と、「深い学び」の視点の手立ての「先輩として、どのように1年生と関わればよいのか（1年生の発表をどう受け止めればよいのか）」という『見方・考え方』を意識しながら、交流会に参加できるようにする」が生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

題材目標②の達成は、「対話的な学び」の視点の手立ての「1年生とどんな交流会にしたいか」を発表し合いながら、課題の解決方法について多面的・多角的に考えられるようにする」が生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

題材目標③の達成は、「主体的な学び」の視点の手立ての「1年生との交流活動を通して、これからの自分の生活に何か生かせることはないか振り返るようにする」が生徒に効果的に働いたからであると解釈することができる。

以上より、2、3年生の生徒が「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの実現ができたのは、開発した特別活動（ホームルーム活動）の授業が、生徒に効果的に働いたからであると考察することができる。

(3) まとめ

以上の各学年の考察から、本研究で開発した授業、具体的には1年生の総合的な学習の時間と2、3年生の特別活動（ホームルーム活動）を関連させ、異学年交流の場を設定した授業は、生徒にとって、主体的・対話的で深い学びを実現させる上で有用性があると結論付けることができる。

また、2つの課題も明らかとなった。一つ目は、2年生のM男とN男から明らかになった、アンケートの質問項目を含む、教師の発問・指示など、生徒の実態を踏まえながら、生徒が具体的なイメージ化ができるように表現を工夫することと、それに合わせて言葉の理解を促すための的確な具体例の示し方も重要となることである。二つ目は、2年生のM男、3年生のP子とQ男のように自己評価の低い生徒への指導の在り方についてである。

これらの課題に関しては、発問・指示等を明記した学習指導案やアンケート等の作成段階で複数の教員間による文字化された言葉が生徒にとって具体的なイメージ化が図れるかどうかの十分な検討や、本研究で設定した異学年交流の機会を重ねていくことと、その上で全教師が同じ方針の基に自己評価の低い生徒に関わっていくことが手立てとして重要となる。

6 おわりに

以上の通り、本研究は、特別支援学校高等部（知的障害）の生徒を対象とした総合的な学習の時間及び特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現を図るための授業開発について追究した。具体的には、主体的・対話的で深い学びを実現させるために、1学年の総合的な学習の時間と、2学年及び3学年の特別活動（ホームルーム活動）とを関連させ、双方の

学習の過程の中で「異学年交流」の場を設定し、①1学年と2学年、②1学年と3学年、③1学年と2学年と3学年という3つの交流を図った。

この開発した授業の有用性について、①授業後に生徒に実施したアンケート調査、②生徒の表現物（授業の感想等）、③授業者による評価の3点から検証した結果、開発した授業は、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現させる上で有用性があることを確認することができた。

今後の課題は、アンケートの質問項目を含む、教師の発問・指示など、生徒の実態を踏まえながら、生徒が具体的なイメージ化ができるような表現を工夫し、それに合わせて理解を促すための的確な具体例の示し方を検討していくことと、自己評価の低い生徒の指導の在り方を検討していくことである。また今回は、特別支援学校高等部（知的障害）の生徒を対象としたが、通常学級に在籍する児童・生徒を対象とした研究も必要である。これらを今後の授業開発等を進めていく上での課題として追究していきたい。

注・引用文献

- 1) 文部科学省「高等学校学習指導要領」(2018年)、
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf, pp.17-18 (2018年7月14日検索)。
- 2) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」(2016年12月21日)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, p.49 (2018年7月14日検索)。
- 3) 「CiNii Articles」で、「総合的な学習の時間 主体的・対話的で深い学び」と、「特別活動 主体的・対話的で深い学び」をキーワードに論文検索したところ、前者は全13件（実際の表示数は全14件となっているが、内1本が重複しているため）、後者は全9件（実際の表示数は全13件となっているが、内1件は重複し、内3件が道徳に関するものであるため）の結果となった（2018年7月18日検索）。この中で授業実践レベル（児童・生徒を対象としたもの）の研究について論じた

- ものは、前者が全7件、後者が全3件という結果であった。さらに、これらの中には、2)の中教審答申(2016年12月21日)の前に行われた過去の実践を新たに「主体的・対話的で深い学び」の観点から捉え直し、論じているものも混在している。
- 4) 本研究は、百瀬と下崎との協議の基に進められたものである。本稿の執筆の分担は、第1章、第2章、第5章、第6章を百瀬が、第3章、第4章を下崎がそれぞれ担当した。
 - 5) 前掲書2)、pp.23-24(2018年7月14日検索)。
 - 6) この3つの検証方法は、百瀬・下崎の先行研究においても用いているものである。多面的に検証できること、評価者がこの方法に慣れていることの理由から、本研究でも用いることにした。この3つの検証方法を用いた百瀬・下崎の先行研究として、次の5つの研究がある。百瀬光一・下崎聖「特別支援学校に在籍する生徒のコミュニケーション能力を高めるための教材・単元開発に関する研究－クラス集団内での共同学習を通して－」『山梨学院大学法学論集』第74号、2014年、pp.116-99、百瀬光一・下崎聖「双方向性のあるコミュニケーション能力を育成するための導入的指導の試み－紙芝居プレゼンテーション法を用いた教材の活用を通して－」『教材学研究』第27巻、2016年、pp.77-86、百瀬光一・下崎聖「学校生活に対する意欲を高めるためのプレゼンテーション活動に関する研究－アクティブ・ラーニングの視点を用いた教材開発を通して－」『教材学研究』第28巻、2017年、pp.93-104、百瀬光一・下崎聖「特別活動を中核としたキャリア教育に関する研究－特別活動と教科等の関連を中心として－」『山梨学院大学法学論集』第80号、2017年、pp.79-112、百瀬光一・下崎聖「主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習の時間の単元開発に関する研究－自己のキャリア形成に関する学習活動の設定を通して－」『山梨学院大学法学論集』第81号、2018年、pp.75-105、である。
 - 7) 前掲書2)、pp.49-50(2018年7月14日検索)。
 - 8) 前掲書2)、p.50(2018年7月14日検索)。
 - 9) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房、2018年、pp.106-108。
 - 10) 同上書9)、pp.109-115。
 - 11) 前掲書6)に示した、百瀬光一・下崎聖「主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習の時間の単元開発に関する研究－自己のキャリア形成に関する学習活動の設定を通して－」『山梨学院大学法学論集』第81号、2018年、pp.75-105、に示されている。
 - 12) 前掲書9)、pp.5-6。

- 13) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」(2018年)、
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afiedfile/2018/07/13/1407196_21.pdf, p. 6 (2018年9月2日検索)。
- 14) 前掲書11)、p.100。
- 15) 前掲書11)、pp.75-100。
- 16) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、東山書房、2018年、pp.21-22。
- 17) 長谷川精一・沼田潤『「特別活動」の指導法における協働的な教育方法の可能性』『相愛大学研究論集』34(2)、2018年、pp.47-52。
- 18) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(2018年)、http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afiedfile/2018/07/13/1407196_22.pdf, pp. 6-9 (2018年9月2日検索)。
- 19) 下崎聖・百瀬光一「体験を生かした『考え、議論する道徳』の授業開発」『山梨学院大学法学論集』第82号、2018年、pp. 1-31。
- 20) 同上書19)、pp. 1-31。
- 21) 本研究は、公表も含め、学校長、生徒及びその保護者の同意を得て進めてきたものである。
- 22) このことに関して、伊藤佐奈美も同様の指摘をしている。伊藤によれば、1年生では漠然と就職することや、社会自立するという目標をもつことが多いが、学年が進むにつれて、生徒は自分自身の課題について認識するようになり、より具体的な目標設定を行うようになるとしている。伊藤佐奈美「軽度知的障害生徒の学校生活への適応に関する研究-特別支援学校高等部における質問紙調査をもとに-」『教科開発学論集』第5号、愛知教育大学大学院教育学研究科・静岡大学大学院教育学研究科共同教科開発学専攻、2017年、pp.13-21。
- 23) 前掲書11)。単元名は、「今年1年の学校生活を豊かにするために、自分が取り組むべきこと・努力すべきことを考え、自分に提案しよう」である。
- 24) 前掲書1)、p.641(2018年9月2日検索)。総合的な探究の時間の目標は、以下の通りである。探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい

社会を実現しようとする態度を養う。

- 25) 前掲書1)、p.645 (2018年9月2日検索)。特別活動の目標は、以下の通りである。集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
- 26) 前掲書18)、p.40。
- 27) 前掲書11) で示した、百瀬光一・下崎聖「主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習の時間の単元開発に関する研究-自己のキャリア形成に関する学習活動の設定を通して-」『山梨学院大学法学論集』第81号、2018年、pp.75-105では、生徒に一年間の自己課題を明確化させるために、「6色ハット発想法」を用いた8画面構成のスライドを作成させた。今回の研究では、1年生の個々の実態を考慮し、それよりもよりシンプルな6画面構成のスライドを作成させることにした。
- 28) 吉田浩之「『月間生徒指導』計画(10) 1月 目標設定のポイント(1) 目的の吟味・明確化」『月刊生徒指導』37(1)、学事出版、2007年、pp.48-51、及び吉田浩之「『月間生徒指導』計画(11) 2月 目標設定のポイント(2) 目標設定にかかわる基本項目」『月刊生徒指導』37(3)、学事出版、2007年、pp.68-71。ここでは通常学級の生徒を対象とした目標設定に関わる基本項目や指導のポイントなどが詳述されている。その中で吉田は、確かな目標を掲げるためには、目標の上位に位置する目的を吟味・明確化し、その上で目標を設定すること、さらに、この目的・目標の達成に向けて下位目標(日課目標と期間目標)を設定し、それらの取り組みごとに「どうなるとよいか、どうあればよいか、どこまで達成できればよいか」などを思い描き、取り組みの「到達点・ライン、ゴール像」を明確にすることなどを指導のポイントとして挙げている。本研究では、この吉田の論考を参考にしながら、生徒の実態を踏まえ、「目的」の代わりに「願い」という言葉を使って、その吟味・明確化を図ってから、「自己課題」を設定させることにした。さらに、「到達点・ライン、ゴール像」を生徒に持たせることにより、生徒の「主体的な学び」の姿を期待した。

- 29) お家の方へのインタビュー活動は、次の百瀬・下崎の先行研究でもその有用性が確認されている。その先行研究として、前掲書 6) で示した次の 3 つの研究がある。百瀬光一・下崎聖「双方向性のあるコミュニケーション能力を育成するための導入的指導の試み―紙芝居プレゼンテーション法を用いた教材の活用を通して―」『教材学研究』第27巻、2016年、pp.77-86、百瀬光一・下崎聖「学校生活に対する意欲を高めるためのプレゼンテーション活動に関する研究―アクティブ・ラーニングの視点を用いた教材開発を通して―」『教材学研究』第28巻、2017年、pp.93-104、百瀬光一・下崎聖「主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習の時間の単元開発に関する研究―自己のキャリア形成に関する学習活動の設定を通して―」『山梨学院大学法学論集』第81号、2018年、pp.75-105、でそれぞれ示されている。本研究でもその有用性を踏まえ、導入することにした。
- 30) 百瀬・下崎の先行研究で活用した評価の表記の形式を今回開発した授業の評価でも活用することにした。その先行研究として、前掲書29) で示した 3 つの研究がある。百瀬光一・下崎聖「双方向性のあるコミュニケーション能力を育成するための導入的指導の試み―紙芝居プレゼンテーション法を用いた教材の活用を通して―」『教材学研究』第27巻、2016年、p.83、百瀬光一・下崎聖「学校生活に対する意欲を高めるためのプレゼンテーション活動に関する研究―アクティブ・ラーニングの視点を用いた教材開発を通して―」『教材学研究』第28巻、2017年、p.101、百瀬光一・下崎聖「主体的・対話的で深い学びを実現するための総合的な学習の時間の単元開発に関する研究―自己のキャリア形成に関する学習活動の設定を通して―」『山梨学院大学法学論集』第81号、2018年、p.95、でそれぞれ示されている。
- 31) この 3 段階による評価を用いた百瀬・下崎の先行研究として、前掲書 6) で挙げた 5 つの研究がある。

謝辞

A 県立 B 特別支援学校の C 校長先生、1 年生担任の D 先生、2 年生担任の E 先生、3 年生担任の F 先生、1、2、3 年生の皆さんには、本研究を進めるにあたり、多大なるご協力を賜りました。この場をお借りしてお礼申し上げます。